

THINK IT TOGETHER!

先生、あなたの協力がが必要です!

保育園給食 改善のご提案

1. 園の給食には、西日本で生産された食材を使用してください。

2. 使用食材の産地を保護者に公開してください。

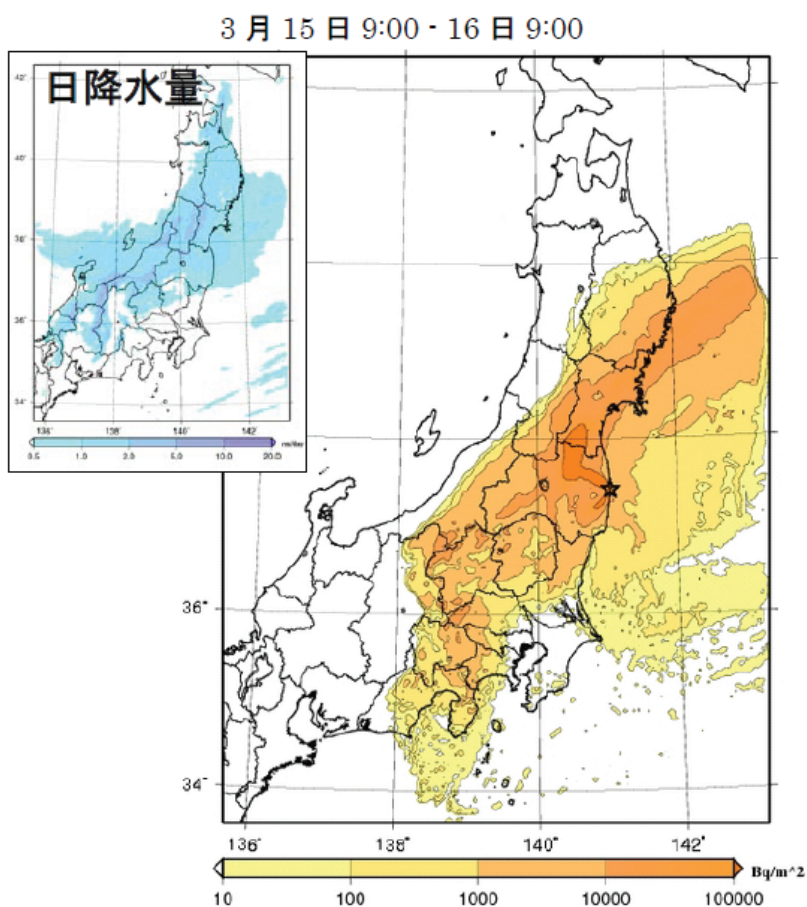


● 提案の理由①

広範囲に汚染された東日本

2011年3月12日から15日にかけて、東京電力福島第一原子力発電所で爆発事故が起きました。風向きによって福島・宮城・岩手・山形・新潟・茨城・千葉・栃木・群馬・長野・栃木・埼玉・東京・神奈川・山梨・静岡上空に放射性セシウムが広がり、雨によって地面に降り注ぎ、土壌を汚染しました。

3月15日から16日のセシウム降下量の試算結果図（日本原子力研究開発機構）



出典：（独）日本原子力研究開発機構「福島第一原子力発電所事故に伴うCs137の大気降下状況の試算

この事故は、1986年に起こったチェルノブイリ原子力発電所事故を超え、歴史上最大の原発事故となりました。

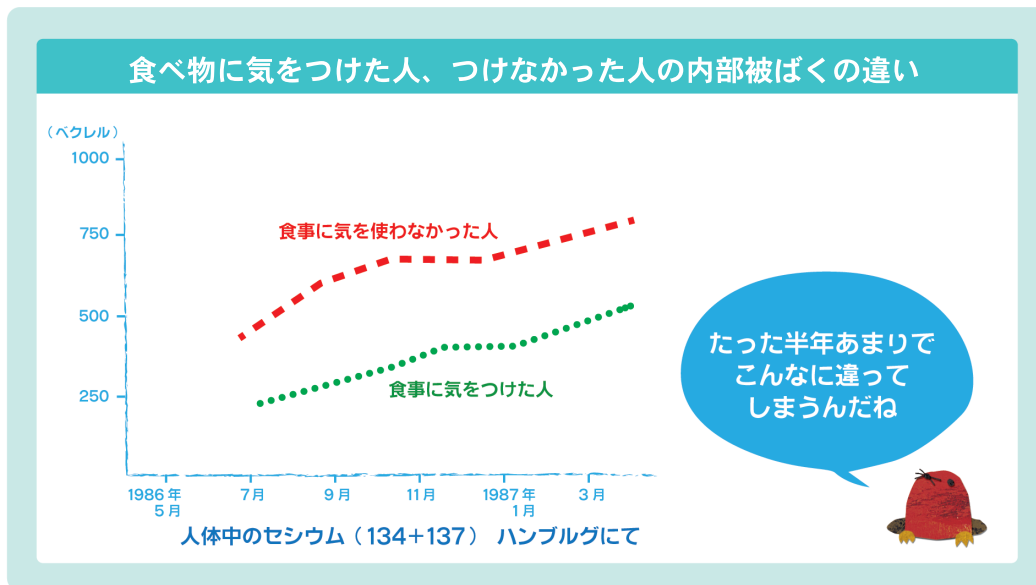
事故は現在も収束しておらず、2011年10月においても**1日24億ベクレルの放射性物質が大気中に放出されている**と、政府および東京電力が公表しています。

（2011年10月17日 政府・東京電力統合対策室合同記者会見より）

● 提案の理由②

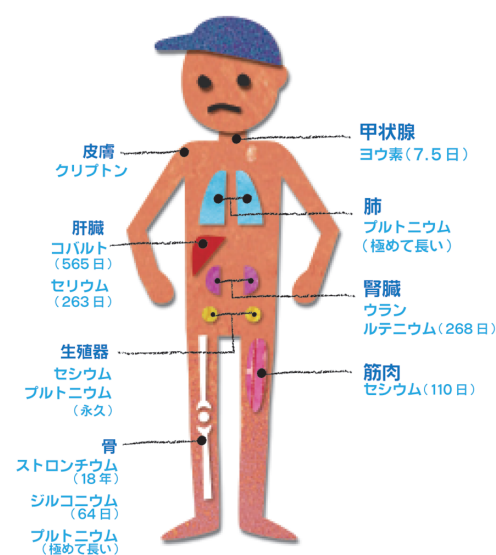
外部被ばくより危険な「内部被ばく」

被ばくには外部被ばくと内部被ばくの2種類があり、給食に大きく関わるのは**内部被ばく**です。内部被ばくは、放射性物質が体内に取り込まれたときに起こるものです。レントゲンなど身体の外から浴びるのと異なり、**身体の内側で至近距離から長時間浴び続けるため、低線量でも危険性が高い**のです。



さまざまな臓器に集まる放射性物質

※カッコ内は、体内にとどまる期間（生物学的半減期）



●ヨウ素131

甲状腺にとどまり、甲状腺ガンの要因となります。

●セシウム137

筋肉・生殖器をはじめ全身にたまるので危険性が高いといわれています。

●ストロンチウム90

一度体内に入ると排出されにくく、ごく少量であっても、非常に長い間影響を及ぼし続けます。

●プルトニウム239

2011年10月、福島原発から250km離れた**横浜市港北区**のマンション屋上から**ストロンチウム90**が195ベクレル/1kg検出されました。骨にたまるので排出されにくく、少量でも深刻な影響を及ぼすストロンチウム90が、**東北・関東に広く飛散**していると考えられます。

● 提案の理由③

放射線の影響を受けやすい子ども

さまざまな疫学調査の結果、子どもは大人に比べて放射線の影響を受けやすいことが知られています。

放射線に対する感受性は、分裂を繰り返している細胞ほど高くなります。したがって、大人に比べ細胞分裂や物質代謝が盛んな胎児や子どもは、放射線に対する感受性が高くなります。被ばく時の年齢が10才以下（胎児を含む）の場合、生涯にわたるガンの確率は成人に比べて2～3倍高いといわれています。

ドイツ放射線防護協会は、福島原発事故の発生後の日本において、食べ物による内部被ばくの危険性を最小限に抑えるため、チェルノブイリ原発事故の経験をもとに考察・算定を行い、以下のような基準値（許容量）を提言しました。子どもは大人の半分としています。

飲食物に含まれるセシウム137の許容量（ドイツ放射線防護協会）

子ども	4ベクレル/kg
大人	8ベクレル/kg

【参考：日本の暫定基準値（セシウム137）】

飲料水・牛乳・乳製品 200ベクレル/kg 野菜・魚・肉など 500ベクレル/kg

どうぞ先生、私達と一緒に出来ることを考えてください。



原発事故と放射能汚染に対し、子どもたちは何の責任もありません。にもかかわらず、放射性物質が含まれた食材は全国に流通しており、どんなに気をつけて対策していても、若干の内部被ばくを避けられないのが現実です。そして、飲食物を通じた放射性物質の摂取は、長期間にわたって身体に深刻な影響を与え続けるのです。

西日本の食材を選ぶだけで、確実に内部被ばくの量が減ります。子どもたちの健康を守るため、どうかご協力をお願いいたします。

special thanks! @idoa
design by @maskmamas
<http://10years-after.lolipop.jp/>